

スローガンに込められた3つの願い

筑紫野市人権尊重のまちづくりスローガン

『自分が人からされたり、言われたりして、いやなことは自分は人にしない、言わない』

この言葉は2018（平成30）年、筑紫野市教育総合会議において採択された「人権尊重のまちづくりスローガン」です。

た、3つの願いが込められています。

●小さい頃から

まず、一つに、小さい頃から人を大切に感じる感覚を染み込ませ、いじめや差別をなくすための行動ができる人を育てたいという思いです。

知らない間に植えつけられた偏見によって、人を傷つける行動をとってしまうこともありま

す。しかし、小さい頃から人を大切にできる言葉や行為に囲まれていれば、人として望ましい行動

をとることが自然とできるようになるはず。子どもを取り巻く環境が、あたたかいものになること、それが一点目の願いです。

●自分にあてはめて

二つに、被差別の側に立ち、いじめや差別の問題を自分のこととして捉える力を育てたいという思いです。

筑紫野市内で差別落書きが発生した際、落書きを目の前にした多くの人が憤りを感じたのは言うまでもありません。差別する言葉が自分に向けられたら、と想像する力が少しでもあれば、差別という愚かな行為をせ

ずに済んだかもしれません。相手の痛みや苦しみを、自分にあてはめて想像することができるとなること、それが二点目の願いです。

●大人も子どもも一緒に

三つに、スローガンを大人も子どもも分かりやすい言葉にして、すべての人が一緒に取り組むことができる取組になってほしいという思いが込められています。

同和問題の解決は「国民的課題」と言われています。その「国民」には大人も子どもも含まれており、多くの人に分かりやすいことが何よりも大切です。

『一人の百歩より、百人の一步』の考えのもとに、市民全員で大切にできる取組になること、それが三点目の願いです。

●新たな動き

市内五中学校の生徒会では、お互いの人権を尊重し、あらゆる差別や抑圧を許さずに行動していくことを盛り込んだ※「私たちの宣言」を作成しました。

また、この理念のもと、五つの中学校では、難民キャンプの子どもたちに子ども服を送る活



動や、同和問題啓発強調月間における啓発運動など、五中学校生徒会で一緒に行う活動に取り組んでいます。

権尊重の社会づくりに貢献できるということを証明してくれました。

※私たちの宣言

2020（令和2）年4月、市内の五中学校生徒会連合体でつくった宣言で、お互い的人格や人権を尊重し、あらゆる差別や抑圧をなくすため、学んだり行動したりしていくことを宣言しています。各中学校はもとより、市役所一階売店前ホールにも掲示しています。